

2/2 (火) 瀬戸屋敷での節分行事

問 産業振興課 ☎84-0317

あしがり郷瀬戸屋敷で、恒例の節分行事を執り行いました。例年は、年男による豆まきを開催していますが、今年は関係者のみで行い、皆さんの一年の健康と安全、新型コロナウイルス感染症の終息を願いました。ちなみに、節分が2月2日になるのは、124年ぶりということで話題になりましたが、4年後の2025年も同じく、2月2日になるそうですよ！



▲「コロナ終息」などと書かれた的に向かって豆まき



▲さがみ信用金庫開成町支店では、毎週火・木曜日にテイクアウトを注文(写真は富士美亭)

お昼にテイクアウト、広がっています

問 産業振興課 ☎84-0317

昨年からテイクアウトでの提供に挑戦する町内飲食店が増えました。2度目の緊急事態宣言発出後には、町役場をはじめ、従業員の昼食としてまとめて注文を取る事業所も出てきていて、お店の味をお弁当で楽しむ人が増えています。テイクアウト実施店の詳細は、「おうちであしがら」HPをチェック▶



町の特産品をポップに表現

問 企画政策課 ☎84-0312

大学でデザインを学ぶ瀬戸桃子さん(上延沢)が卒業制作で選んだモチーフは、町の特産「開成弥一芋」。町が大好きで、PRしたいという思いから、象徴的なイメージを探していたそうです。「結果的に、あえて地味な弥一芋を選びました」と話す瀬戸さん。クッションやポーチには、鮮やかな弥一芋の柄が小気味よく並びます。本来の色に加えて2種類のカラーで表現し、黄色は瀬戸さんの考える町の明るいイメージ、ピンクはアジサイの花の色だそうです。



▲瀬戸桃子さん



▲手刷りの生地をつくり、さまざまなグッズを制作

あの記事は

今...!?

広報かいせいに掲載された記事のその後を、まちづくり情報特派員が追いかけます！

今月は石崎まちづくり情報特派員が、4年前の平成29年6月号に特集した「町内巡回バス(現:福祉コミュニティバス)」を追跡取材しました。

問 企画政策課 ☎84-0312

平成29年6月号 福祉コミュニティバスを追っかけ!



◀広報はコチラ



まちづくり情報特派員 石崎 雅美

銀色の車体に町のマスコットキャラクターあじさいちゃんがペイントされた小型バス。町内の生活道路を走っている風景もすっかり定着しましたね。

運行を開始して5年目。福祉コミュニティバスは、どうなっているんでしょう? 運転手の伊藤浩孝さんの1日に密着しつつ探ってきました。



▲伊藤さん

時刻表はコチラ▼



見たことある? あじさいちゃんが目印!



密着!福祉コミュニティバスの日



点検

皆さんを安全・安心に目的地までお連れするため、バスに異常がないか、くまなくチェック。



出発!

ルートは、瀬戸屋敷方面とみなみ地区方面をつなぐ南北線と、町をぐるっと一周する巡回線の2つ。



運転終了

感染症対策のため、最後までしっかり消毒をして、明日の運行のために、車内を整えます。

利用者の声

週2回、通院や習い事があるときに利用しています。運転免許を返納したので、福祉コミュニティバスがあってとても助かっています。

いしづかよしこ 石塚良子さん



町民の声に答えて日々進化!

バスのダイヤ改正は、3年に1回行っているそうです。バス停の追加や移動など、利用者の利便性を考えて日々進化しています。また、運行しているバス全てが車椅子対応になり、体が不自由な方のお出掛けにも一役買っています。どなたでも安心して利用できます!

コロナ禍で利用者は減少

利用者はコロナ前と比べて約半分に減少。それでも開成駅から役場、各地域から開成駅への移動に利用する人が多いそうです。ここ数年ですっかり常連になった人もおり、伊藤さんはしばらく顔を見ない人がいると「あの元気がな?」と思うこともあるそうです。

編集後記

4年ぶりの福祉コミュニティバスでした!開成町に住んでいながらも、知らなかった町の一面を垣間見られる楽しさは変わらず、利用しやすいように日々進化を続けていたんですね。

開け放った窓からの風も心地よくなるこれからの季節、身近な場所でちょこっと旅気分を味わってみるのもいいかもしれません。

まちづくり情報特派員 石崎雅美

皆さんも乗ってみてね!

